



6.7
ROADSHOW
kaijunokodomo.com

芦田愛菜
石橋陽彩
浦上晟周
森崎ウィン
稲垣吾郎
蒼井優
渡辺徹
田中 渥
富司純子

原作：五十嵐大介「海獣の子供」(小学館 文庫)
監督：渡辺 歩
音楽：久石 譲
主題歌：米津玄師「海の幽霊」(ユニバーサルレコード)
キャラクターデザイン：池田真澄・高田・小西賢一
美術監督：木村真二
CG監督：林本賢一郎
色彩設計：伊東美由樹
音楽監督：宮城弘高
プロデューサー：田中実子
アニメーション制作：STUDIO4℃
製作：「海獣の子供」製作委員会
配給：東宝映像事業部
出品：© 5.18.19 文化庁文化芸術振興費補助金 (国映月4製作助成)
©2019 五十嵐大介・小学館・「海獣の子供」製作委員会
kaijunokodomo.com



一番大切な約束は
言葉では交わさない

海獣の子供

6.7
ROADSHOW

あなたは〈生命誕生の物語〉を目の当たりにする——。

独特の線使いとその描画表現で読者を魅了し続ける漫画家・五十嵐大介。初の長編作『海獣の子供』（小学館 IKKICOMIX刊）は、自然世界への畏敬を下地に“14歳の少女”と“ジュゴンに育てられた二人の兄弟”とのひと夏の出逢いを、圧倒的な画力とミステリアスなストーリー展開によってエンターテインメントへと昇華させた名作。映画本編では、原作が持つ「海の中で感じる静けさと荒々しさ」や「海の匂い」を、スクリーンから溢れだすほどの“映像”と“音楽”に詰め込み、観る者全てを呑み込んでいく。映画『鉄コン筋クリート』などのハイエッジな映像表現で世界から注目を浴びるSTUDIO4℃最新作にして、そこに集いし日本アニメーション界の至宝たちが織り成す〈海洋冒険譚〉。

メインキャストには、テレビドラマ『Mother』で一躍その名を世間に知らしめ、その後ハリウッド作品などにも出演し、直近では連続テレビ小説『まんぷく』の史上最年少の“語り”を任されるなど、今もなお女優としての活躍の場を広げ続けている芦田愛菜、映画『リメンバー・ミー』の主人公ミゲルの日本語吹き替えを演じ、その美声で注目を浴び続ける石橋陽彩、そしてNHK大河ドラマ『真田丸』で真田幸村の嫡男・大助を好演し、舞台でも活躍する浦上晟周、さらに映画『レディ・プレイヤー1』にてステイーヴン・

スピルバーグ監督にその才能を見出され、青年トシロウ役に抜擢された森崎ウィンと、劇中キャラクターの年齢に近い等身大のキャスティングが実現。そんな彼らを支えるのは稲垣吾郎、蒼井優、渡辺徹、田中泯、富司純子といった個性を自由自在に共鳴させる実力俳優陣。

音楽を担うのは、今や日本にとどまらず世界的作曲家である映画音楽界の巨匠・久石譲。長編アニメーション映画を手掛けるのは、スタジオジブリ制作の『風立ちぬ』、『かぐや姫の物語』以来6年ぶりとなる。危うくも濃密かつ深淵な作品世界に彩りを添えた彼の“音”は映画のもう一つの顔と言える。

異才たちの才気が結晶化した“唯一無二のアニメーション映画”がここに誕生した。

Story

光を放ちながら、地球の隅々から集う海の生物たち。巨大なザトウクジラは“ソング”を奏でながら海底へと消えていく。

〈本番〉に向けて、海のすべてが移動を始めた——。

自分の気持ちを言葉にするのが苦手な中学生の琉花は、夏休み初日に部活でチームメイトと問題を起こしてしまう。母親と距離を置いていた彼女は、長い夏の間、学校でも家でも自らの居場所を失うことに。そんな琉花が、父が働いている水族館へと足を運び、両親との思い出の詰まった大水槽に佇んでいた時、目の前で魚たちと一緒に泳ぐ不思議な少年“海”とその兄“空”と出会う。

琉花の父は言った——「彼等は、ジュゴンに育てられたんだ。」

明るく純真無垢な“海”と何もかも見透かしたような怖さを秘めた“空”。琉花は彼らに導かれるように、それまで見たことのなかった不思議な世界に触れていく。三人の出会いをきっかけに、地球上では様々な現象が起こり始める。夜空から光り輝く流星が海へと墮ちた後、海のすべての生き物たちが日本へ移動を始めた。そして、巨大なザトウクジラまでもが現れ、“ソング”とともに海の生き物たちに「祭りの〈本番〉が近い」ことを伝え始める。

“海と空”が超常現象と関係していると知り、彼等を利用しようとする者。そんな二人を守る海洋学者のジムやアングラード。それぞれの思惑が交錯する人間たちは、生命の謎を解き明かすことができるのか。

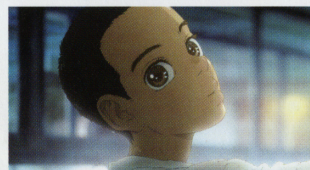
“海と空”はどこから来たのか、〈本番〉とは何か。

これは、琉花が触れた生命の物語。



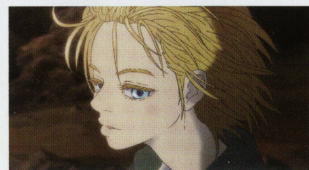
安海琉花（あづみ りか）

自分の気持ちをうまく言葉に出来ず、学校ではトラブルを抱える中学生二年生。父親は別居中で、共に暮らす母とも距離を置いている。



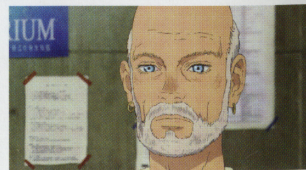
海（うみ）

10年前にフィリピンの沖合で保護され、今は琉花の父が働く水族館に身を寄せている。偶然、琉花と出会い、琉花に対して好奇心を抱く。



空（そら）

「海」と共にジュゴンに育てられたとされる。彼の兄として育ち、自らの出生の秘密を探るため、ジムに協力する一面も。



ジム

海洋生物学者。「海」と「空」の謎に迫るため二人を“保護”・“研究”している。



アングラード

若き天才海洋学者。かつてはジムの相棒であったが、現在は異なる立場で「海」と「空」の謎を追う。



デデ

世界中をたった一人で航海する「海」のなんでも屋」。ジュゴンとともに、“捕獲”された「海」と「空」の謎を見守る



安海正明（あづみ まさあき）

琉花の父、水族館職員。家族とは別居中だが二人のことを大事に思っている。



安海加奈子（あづみ かなこ）

琉花の母。思春期の娘とも夫とも関係がうまくいかない。かつては正明と同じ水族館職員だった。